

トップページ	組織概要	フォーラム	プロジェクト	コラム	お問合せ
会員トップ	フォーラム	プロジェクト	コラム	会員用掲示板	

第161回 寺子屋フォーラム

【日 時】 2015年12月26日（土）13：00-17：00（開場：12：30）

【会 場】 中央区立環境情報センター 研修室2

・開会挨拶：松井理事 ・司会進行：宗像理事 ・ワールドカフェ進行：中瀬理事

第1部 【今年の出来事を技術視線で振り返って、未来について語ってみよう】

話題提供 理事6名によるリレープレゼン

・プレゼン概要

「テクノロジーロードマップの企画・編集・監修・執筆・フォロー作業の実態」 出川理事

単なる技術予測と違う、ロードマップの作成に伴う苦勞が偲ばれる内容でした。ロードマップの先には、実現したい（且つ、絵に描いた餅ではない）未来があるはずで、そこが現状から外挿する将来技術予測とは違うはず。そのことを再認識しました。

「過去から見た現在」 中瀬理事

[・プレゼン資料.pdf](#)

国内外の100年前の予測と、日本人の技術者が40年前に予測した結果など、過去に立ち返って現在を「見る」。昔の人は想像力をどうやって掻き立てて現在（当時は未来）を考えたのか、考えさせられる内容でした。

「テクノ未来塾版、自動運転を考える」 市川理事

[・プレゼン資料.pdf](#)

自動運転技術は、実は安全技術（運転支援と予防安全）の延長。なので、自動運転ビジョンとは、交通事故死者ゼロ化に、都市の過密&過疎に関連する社会課題の解決を加えたものを到達したい未来と置いて、それに至るロードマップを示したものです。グーグルもこの世界に飛び込んできています。今後どうなるのか注目です。

「ムーアの法則は終わるのか？」 中谷理事

[・プレゼン資料.pdf](#)

ムーアの法則は今年で提唱から50年を迎えました。これまで順調に進化してきましたが、ついに減速の兆しが見え始めました。持続的イノベーションの限界に差し掛かっているのか？今後の展開が興味深いです。

「木造建築の今昔、これから」 松井理事

[・プレゼン資料.pdf](#)

木造建築物は、歴史の中でその時代の技術と社会情勢に従って、最適な構法・工法が採用されています。建築の専門家から各国の歴史的木造建築の解説を聞き、木造建築のこれからを俯瞰的に理解して、また考えることが出来ました。

「未来予測とそれに基づく技術開発について」 宗像理事

[・プレゼン資料.pdf](#)

未来予測はいろいろありますが、それをどう捉えてどうやって技術開発に活かすのか？ また、その未来予測の確実性は？ など、自動車の構造部材を例に地域による方向性の違いなどをどう考えるのか。未来をどうつくるのか？ という投げかけでした。

【グループ討論・発表】 ワールドカフェ 5グループ×3回

・参加者の感想

- ・ワールドカフェを通じての『気づき』や『思ったこと』は、
 - ・社会課題の解決に貢献するのが技術
 - ・昔と違い、課題そのものが、日本で普通に暮らしていると分り難くなっている
 - ・また、技術そのものも、中身が理解しにくく、その可能性も想像し難くなっている
 - ・社会課題×自己実現→社会貢献
 - ・多様化→コンシエルジェ
 - ・グローバルとローカル（地産地消）

・ロードマップのMOTの授業で学習しましたが、工作上、機会はなく、未来と技術を考えて事はなかった。我々の会社理念もデジタルデバイスを通して社会を豊かにすることなので今日のテーマに通じる。仕事に戻り社会を豊かにするために自分達のやる事を再考してみたいと感じました。

第2部 【今年度の活動報告と今後の計画・展望】

「エンジニアという職業を語ろう」プロジェクト

・[プレゼン資料.pdf](#)

「グローバルテクノ未来塾（GTM）」プロジェクト

・[プレゼン資料.pdf](#)

「幻の日本製F1 マキF101の再生とEV化」サークル

・[プレゼン資料.pdf](#)

「古代技術とガイドブック作成」サークル

・[プレゼン資料.pdf](#)

「科学技術これからの100年ロードマップ」サークル

・[プレゼン資料.pdf](#)

【新年度に向けて】 阿部 惇理事長

今日は、6名の理事から異なる視点からの様々な話題提供をしていただき、そのあとワールドカフェ方式で全ての参加者を交えた討議が行われました。技術は人間中心という視点、技術は社会を豊かにし人々を幸せにする、というポジティブな視点と技術が抱える課題という両面から

- ・ どういう未来をイメージするのか、どういった未来を具現化したいのか、
- ・ 明るい未来とは、どういった社会なんだろうか
- ・ あるべき姿・ありたい姿を共有するためになすべきことはなんだろうか

等を思い描きながら、どこへ向かうのか、何ができるのか等々有益な議論がなされていました。

テクノ未来塾は、会員・塾生が相互啓発・自己研鑽を行うための「充電の場」である、と同時に、たとえば、プロジェクトやサークルを通じた未来社会への貢献という「放電の場」でもある、と改めて認識しました。未来は（夢は）描いたもの勝ちです。それが理解される内容であれば、テクノ未来塾の目指すことに賛同し、応援してくれる人々が必ず現れると考えています。そして「描いた夢は必ず実現する」、と信じております。

2016年も「理想を掲げた現実主義者たれ」の精神で進んでいきましょう。

【新年メッセージ】 [阿部 惇理事長からの新年メッセージ 2016年1月2日](#)